

製品名: LRAT ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13400**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	27kDa

抗原情報

遺伝子名	LRAT
別名	LRAT; Lecithin retinol acyltransferase; Phosphatidylcholine--retinol O-acyltransferase
遺伝子 ID	9227.0
SwissProt ID	O95237
免疫原	抗血清はヒト LRAT 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160

背景

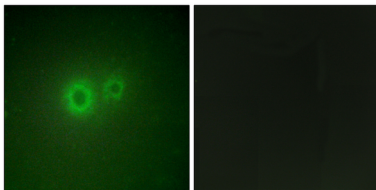
レシチンレチノールアシルトランスフェラーゼ（ホスファチジルコリン-レチノール O-アシルトランスフェラーゼ）（LRAT）ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は小胞体に局在し、そこでオールトランスレチノールからオールトランスレチ

ニルエステルへのエステル化を触媒する。この反応は、視覚系におけるビタミン A 代謝の重要なステップである。この遺伝子の変異は、早期発症型重症網膜ジストロフィーおよびレーバー先天性黒内障 14 と関連付けられている。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2014 年 8 月]、触媒活性: ホスファチジルコリン + レチノール - [細胞レチノール結合タンパク質] = 2-アシルグリセロホスホコリン + レチニルエステル - [細胞レチノール結合タンパク質]。疾患: LRAT の欠陥は、重篤な早期発症型網膜ジストロフィー (RD) の原因です[MIM: 604863]。酵素調節: オールトランスレチニルアルファプロモアセテートおよび N-boc-L-ビオシチニル-11-アミノウンデカンクロメチルケトン (BACMK) によって阻害されます。機能: ホスファチジルコリンの sn-1 位からオールトランスレチノールにアシル基を転移し、オールトランスレチニルエステルを生成します。レチニルエステルはビタミン A の貯蔵形態である。LRAT は視覚において重要な役割を果たしている。LRAT は、網膜色素上皮においてイソメロヒドロラーゼにオールトランス型レチニルエステル基質を提供し、イソメロヒドロラーゼはエステルを 11-シス-レチノールへと変換する。膜結合型アルコール脱水素酵素により、11-シス-レチノールは酸化され、ロドプシンおよび錐体光色素の発色団である 11-シス-レチノールに変換される。誘導: LRAT 活性は食事性ビタミン A によって亢進する。ビタミン A 欠乏状態では、肝臓における LRAT 発現はレチノイン酸によって誘導される。経路: 補因子代謝レチノール代謝。類似性: H-rev107 ファミリーに属する。組織特異性: 精巣と肝臓に高濃度で存在し、次いで網膜色素上皮、小腸、前立腺、膵臓、結腸に多く存在する。脳では低い発現が観察される。胎児組織では、網膜色素上皮と肝臓に発現し、脳ではほとんど発現しない。

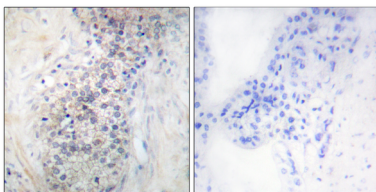
研究分野

レチノール代謝;

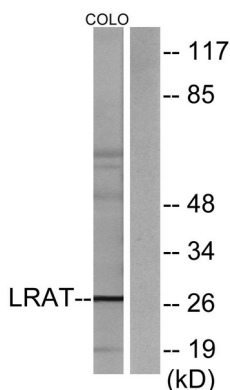
画像データ



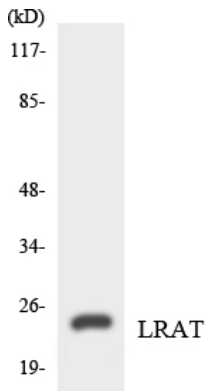
LRAT 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



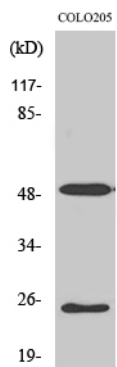
LRAT 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト前立腺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



LRAT 抗体を用いた COLO205 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



LRAT 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 500 に希釈した LRAT ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析